

## 【熊本県賞】

### 川の顔

熊本県 熊本県立八代中学校

2年

辻野 くらら

私が住んでいる熊本はとても自然豊かで川もたくさんある。私は熊本にある川が大好きだ。実際に家の近くにも川がある。私は川の色々な顔を見たことがある。

私が小学三年生の夏のときの話だ。私と父と母と妹と弟で家の近くにあるとてもきれいな川に遊びに行った。そこではたくさんの人が遊んでいた。川で泳いだり遊んだりするのが初めてだった私は、とてもワクワクしていたのを覚えている。実際に川に、はいつてみると、とても冷たくて気持ちよかった。私達家族でたくさんはしゃいだ。そのときまでは、川の恐ろしい顔を見たことがなかった。

川の奥の方にはたくさんの方がいたので私達は、子供だけで奥の方にどンドン歩いていった。興奮していたのでお母さんの気をつけてよという声もあまり聞こえていなかった。すると、突然弟が溺れた。とても苦しそうにしていた。弟は何も声をあげずに溺れていく。周りにいた人もただ見ているだけでだれも助けようとしなかった。誰も知らんぷりしていた。私はどうしていいか分からなかった。少し手前のところでは、私達でも足がつくようなところだったのに弟が溺れたところは、お父さんの胸まであるようなところでも深いところだった。弟は幸い近くにいたお父さんに助けられた。私はとても安心した。

それから怖くなったので川をあがって家に帰った。その日の夜、弟が寝ているときに足をバタバタしてもがいていた。とても苦しそうにしていた。おそらく、夢でも溺れていたのだろう。弟が寝ているときも苦しんでいる姿を見てさらに怖くなった。

しかし、私達家族は、弟はとても苦しい思いをしていたがとてもいい経験をしたと思っている。このことがなければ川の恐ろしさを知らないままだったと思う。これから、私達は川の近くに住んでいる限り川の恐ろしい顔を何回も見ることになると思う。令和二年七月にあった熊本豪

雨もその一つだ。熊本豪雨では、たくさんの方が辛い思いをした。そのため、川のことをよく理解して向き合っていないといけないと思う。

また、私は水の作文コンクールをきっかけに川について調べた。川は恐ろしいものだけれど川の水はたくさんのもので利用され、色々なものをもたらしてくれていることが分かった。例えばかんがい用水、発電用水、工業用水に使用されている。また、それだけではなく川は、いやしにもなっている。私は、川を見るだけで落ちつくことができる。その他にも、たくさん生き物がいたり植物があつたりするので川はなくてはならない存在だと感じた。川の優しい川を知ることができた。

このことから、私達は川にもっと感謝しなければならぬと改めて感じることもできた。そのため私達にできることはないか考え行動することが大切だと思う。例えば、ゴミ拾いなどがある。そのようなことをして川をきれいにしていきたいと思う。

私は、小学五年生のときに川のまわりのゴミを拾うボランティアに参加したことがある。私は、短時間だったがたくさんゴミを拾うことができた。探せば探すほどたくさんゴミがでてくる。それでも、少しは川をきれいにできたと思う。私もたまにポイ捨てをしている人を見かけることがある。川をきれいにするにはたくさんの方が努力する必要があると思う。これからも、皆で協力して川をきれいな状態で保っていきたいと思う。

私は、熊本にある川が大好きだ。